

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790700161		
法人名	株式会社 ころろ		
事業所名	グループホーム ころろの家		
所在地	大阪府j河内長野紫汐ノ宮町17-3		
自己評価作成日	令和元年12月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2790700161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームこころの家が開設から5年の歳月が経ち、ご利用者さまも高齢になれましたが、お元気でスタッフと親子や孫の様な関係になっており、毎日楽しく過ごしています。又毎月の行事も入居者様の健康状態を見ながら、実施しています。近くの公園に行ってベンチに座って子供たちの遊ぶのを眺めたりしたり、地域で行われる行事に参加したりしています。外食もあまり行けない時は、百貨店で美味しいお弁当を購入したり、ピザの出前をしたりして食べる楽しみを感じています。当ホームは退去者が少なく元気でいる間は、このホームにいたいと言いながら、本当に皆さま仲良くすごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは雨の日以外は年間を通して個々の体調に合わせた距離を選び全利用者が毎日散歩しており、顔なじみの地域の方も増え、時折果物や野菜等の収穫物が届く等の関係性が築かれています。運営推進会議には自治会長等の出席もあり、地域の夏祭りや餅つき等へ案内があり利用者と一緒に参加する等、地域との関係も良好で地域と共に暮らすこととなるよう支援しています。職員は個々の思いやその人らしい暮らしを考え、知り得た思いから電車を利用して墓参りや買い物、カラオケに行く等の個別支援に繋がっています。また手作りしている食事はバイキング形式にしたり、回転ずし等の外食や百貨店の弁当の購入等の他、おはぎ作り等も利用者と一緒に楽しんでいます。また車いすの方も椅子に座り替えてもらい姿勢を整え食事が摂れるよう支援をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「貴方らしさ」を理念としているホームでは、一人ひとりに寄り添いその人に合った生き方を考えながら理念に沿った暮らしが出来るよう取り組んでいます。	開設時にオーナーの思いなどが込められた「あなたらしさや笑顔」などが謳われた理念を継承し、玄関に掲示しています。毎月のカンファレンスでは管理者が理念に触れる事もあり、日々の支援を考える中でも利用者毎の思いを汲み取り、意向に添いその人らしさを出せる暮らしについて話し合いながら理念に沿った支援となるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日はホームの近隣を毎日かかさず散歩にいつて行っています。近くに保育園があり、散歩の時間が一緒に会うことがあり、とても穏やかな顔で帰ってきます。	毎日近隣を散歩しており、出会った方と顔見知りになり挨拶を交わしたり、花や野菜をもらう事もあります。また地域の夏祭りや餅つき等にも声をかけてもらい利用者と一緒に参加しています。近隣保育園児とは散歩時に出会ったり、クリスマスには園児が来訪して遊戯を披露してもらい、行事の際はフラダンス等のボランティア来訪もあり、利用者が楽しみながら交流できる機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会に参加して、夏祭りや、お正月前の餅つきを見に行き、搗いた餅を頂いて帰ってきたり地元の行事に参加させて頂いて交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催していますホームでの出来事や現状報告を積極的に発信しています。時々入居者様にも参加して頂き、他の方との会話も楽しんでもらっています。	運営推進会議は毎回テーマを決め家族や自治会長、民生委員、市職員などの参加を得て隔月に開催し、時には利用者も参加しています。ホームの現状や行事などの報告を行い、事故やヒヤリハットについては対応策を含めて報告しています。自治会長から地域の状況報告を受けたり、参加者から行事の案内をもらい夏祭りや餅つきなどの地域行事への参加に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政職員の参加を頂き、事業所の取り組みなどお伝えし、協力いただけるようにしています。日ごりから気軽に問い合わせや相談が出来る良好な関係が築かれています。	市職員は運営推進会議に参加すると共に役所で行われるグループホーム部会やケアマネ部会に参加しており関わる機会も多く、依頼を受けてマッサージの研修を受け入れるなど良好な協力関係を築いています。また感染症の注意喚起や研修案内が届き研修には内容により職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年に1回程度研修科目に入れていますが、当ホームについては、日常生活の中でも行動の制止や束縛に繋がるような行動は行っていない。施錠についても夜間勤務者だけになるまでしないことにしている	身体拘束については2ヶ月に1度行っている研修の中で取り上げ学んだり、カンファレンスや日常業務の中でも職員から質問が上がる事もあり、その都度分かりやすく説明をしています。全利用者が毎日散歩に出ており閉塞感の無いよう支援をしています。また夜間以外は玄関の施錠を行わずエレベーターも自由に利用でき、職員間で連携して見守り付き添っています。	

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでなぜ身体拘束・行動制限を行わない事が重要なのか話し合い理解を深めると共に、一切の身体拘束を行わない事を徹底しています。言葉のかけ方についてもスタッフでお互い気を付ける様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの真向かいに司法書士の方が住んでいてホーム入居者様2名様が成年後見人を御願ひしていたので、いろんなことを学ぶことが出来ました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に、ホームにおいていただき、各契約書の十分な説明を行い、不安や疑問などお聞きし十分に理解を頂いています。又御入居されるご本人の方にもご説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望などは日々の会話の中で聴くように努力している。又家族様には面会時、電話連絡、ケアプラン見直し時等意見を聞いています。出された意見はスタッフミーティングで伝える様にしています。	利用者の希望は日々の中で汲み取り、食べたい物を献立に取り入れたり、行きたい場所への外出などに繋げています。家族の意見は来訪時に様子を伝える中で聴き、できる事をさせて欲しいとの要望を受け、日頃から調理などの家事に携わってもらっている事を伝えたり、服薬に関する意見では医師に相談しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行うホーム会議でスタッフからの検討してほしいテーマを募り、意見の交換をしています。又その意見を運営に反映させています。	月に1度のカンファレンスでは職員からケアや業務、困っている事などについて意見を募り、出された意見は職員間で話し合い決めています。職員の意見を受けてトイレ掃除のチェック表を作り明確化し確実に掃除を行い清潔に努めたり、物品の購入や業務分担の変更などに繋げています。また管理者は日々の中で職員の様子を見ながら声をかけ、話を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	多様なスタッフの能力を最大限に引き出し活用することが介護には欠かせません。「充実した仕事」「やりがいのある仕事」として高められるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回ホーム会議の後勉強会を行っています。スタッフが順に資料を作り、それに基づいて、いろんな意見を出して、相互に育成出来る様にしている。又外部研修を受講する意欲的な職員もいます。		

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。グループホーム部会の開催に参加したり、市による「いきいきフェスタ」でホームから2名参加し、舞台上で合唱イベントに参加しています		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人からこれまでの生き方や趣味や病歴などをお聞きし、又ホームに対する要望や、不安に思うことをお聞きし、安心して御入居いただける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際にホームを見学頂き、ご家族様の要望やご本人が安心して過ごして頂けるよう、どのようにしたらいいか話し合い、納得された上で、御入居をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の状況を把握し、事前に来ていただくことで、何を求めておられるのか、今必要としておられる支援を作成し、今後の状況の変化があれば変更が出来るということをお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで、自立して出来ていたことが、続けて発揮出来る様に、必要な時以外は、手を貸したりしないように心がけています。出来たという喜びや楽しさを感じとれる様な関係を築く努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、何かあったらご連絡をさせて頂き、何か行事があれば写真を撮ってご家族様に郵送させていただいています。又今後の介護ケアの方向性等、御相談しながら共に支えるパートナーとして、いい関係を作る努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで仲の良かった親戚の方が来られたり、検査などで病院に出かけた帰りに、ご家族の方が食事に連れ出したり、喫茶店に行つて、美味しい珈琲を飲んだりして帰つてこられる。	友人や孫などの親戚の来訪時は居室や広い廊下に寛げる場所を作っており、過ごす場所の希望を聞きながらゆっくり過ごせるよう配慮をしています。職員と一緒に電車を利用して墓参りや買い物をしたり、カラオケを楽しむなど日々の中で汲み取った思いを個別支援に繋げています。また地域行事に参加した際に知人に出会う事もあり会話を楽しんでいます。また家族と共に法事などの親戚の集まりに出かける方もおり出かける準備などを支援しています。	

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	広いリビングで、テレビを見たり、会話を楽しんだり、時には塗り絵をしたり、四字熟語の漢字を書いたりしながら、趣味の合う入居者様たちが楽しく生活している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで自主退去された方がおられなくて、入院先で亡くなったり、看取りで亡くなってサービス利用が切れてしまっても、ご葬儀の参列させて頂き、ご家族とのお付き合いが続いている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	。日常の関わりや利用者担当のスタッフが中心になって、今後のしたい事や意向を聴いて申し送り等を利用して、スタッフ全体で共有し、本人のケアに努めています。	入居に向けてはケアマネジャーが利用者や家族を訪問し、これまでの状況や趣味、ホームでの暮らしへの希望などを聞いたり、関わりがあった担当者や病院などからの情報を含めて思いの把握に繋げています。また日々の会話や雑談の中で聴いた本人の思いや職員が表情や様子などから汲み取った思いは個人記録に残し、カンファレンスの中で思いが把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、お話を伺い、考え方、病歴、趣味等お伺いし、病歴などの情報も参考にし、これからの生活に活かし、介護の計画を立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や、散歩や、入浴などは時間が決まっていますが、それ以外はお部屋で過ごしたり、テレビを見たりお昼寝したり、その方の心身の状態にあった支援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に作成した介護計画は利用者の状態により随時見直し担当者会議を行い事前に聞いていた家族や医師の意見も反映した介護計画を変更するようにしています。	本人や来訪時などに確認した家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。チェック表を用いて日々計画の実施状況を確認し、毎月のカンファレンスでは全利用者について変化が無いかを確認しています。3ヶ月毎にモニタリングを実施し変化の無い場合は6ヶ月毎に再アセスメントを行い、担当者会議を開き介護計画を見直しています。また必要に応じて往診医の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホームで独自に服薬管理、水分摂取、バイタル等個別に記録し、ホームドクターやスタッフ等で情報を共有し介護計画を見直し等に生かせる様にしています。		

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住み慣れた地域で暮らし続けるため、地域の方の入居相談に来られた時は、認知症ケアの経験を活かした助言や支援が出来る等ホームの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の寿司屋さんから出前を取ったり、地域で行われるイルミネーション見学等介護タクシーで出かけています。又マクドナルド等に外食に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を御願している医師に月2回の往診をして頂き、又訪問看護に月2回来ていただいています。急に熱が出たりしたときにも、訪問医に連絡をして指示をして頂いています。	契約時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが現在は全員が協力医を選択し、月2回往診を受けています。専門医を受診の際は往診医に紹介状を書いてもらい家族が付き添い受診し、家族から検査結果等の報告を受けています。往診医には何かあれば気軽に相談しており、緊急時は24時間携帯に連絡を取る事が出来アドバイスを得たり、随時の往診にも対応してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている医療機関から看護師に月2回訪問していただいている。健康状態や体調管理、気になることがあると相談をし、指示を頂くようにしている。又24時間連絡が取れる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず付き添い情報提供を行い、本人、ご家族が安心できるように、主治医や担当看護師との話合う場を作って貰っています。又早期に退院出来る様に相談をし病院関係者との関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化したり、看取りに対する指針を作成し、契約時にホームでの看取りも可能であることは伝えてあります。ホームでの看取りを希望されたご利用者様には、主治医とも協力しながら、ご本人、ご家族様の希望に添った支援をしています	入居時に看取りに関する希望があれば支援できることを伝えており、殆どの家族が希望をしています。長期入院など状況が変化した際は医師が家族と面談し状況を説明し、家族や医師、職員の三者で今後について話し合い方針を決めています。これまでに支援の経験があり、三者面談を重ねながら家族の思いの変化にも寄り添い、職員はカンファレンスや日々の中で変化する情報を共有しながら支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に対応出来る様に緊急時対応マニュアルを作成し、訓練・研修を行っています。応急手当等は適切な対応ができるようにしています		

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回自衛消防訓練を実施して行政の消防署に報告をしている。地震、火事、消火器の使い方初期消火等入居者さまと一緒にやって行っています。	独自の訓練を年に2回、昼間を想定し火災や地震等の想定を替えながら実施し、初期消火や避難誘導、消火器の使用方法などを行っています。訓練時は近隣に案内文をポスティングし、運営推進会議でも案内や報告を行っています。地域の訓練には利用者と一緒に参加しており、町が近隣公園に住民の為に備蓄をしています。ホームの備蓄については検討を予定しています。	職員の少ない夜間の時間帯を想定した避難誘導の方法などを訓練に取り入れてはいかがでしょうか。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活に関わりながら、利用者様のトイレの誘導時の声掛けに注意を払っています。職員は基本敬語で対応していますが、不適切な対応が見られたら注意をし会議等で改めて話合っています。	利用者への声掛けは敬語を基本に丁寧過ぎず、その場の雰囲気や利用者毎に合わせた言葉掛けや対応をするよう伝え、同姓者以外は下の名前では呼ばない事などを決めています。不適切な対応が見られた場合はその都度注意したり、毎月の会議や日々の中でも事ある毎に具体的に職員に伝えていきます。同性介助の希望がある際は希望に添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で利用者の考えで行動できるように支援しています。又自己決定が困難な入居者様には、選択肢がたくさんある中から探して選びながら、どれがいいですかとお伺いし、自分で決めて頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の体調等を考慮しお部屋でテレビを見たり、ベットでお昼寝したり思い思いに自分のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅から持参した洋服等クルーゼットにかけて気に入った衣類を着て頂くようにしている。又介護タクシーで近くのスーパーに買い物行ったときに、気に入った洋服を購入するなど支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	去年までは、下ごしらえ、後片付け等率先していただいていたのですが、今年は声掛けをしてお手伝いしてもらっています。特に季節感を感じられる食事を提供できるように心がけています。	利用者の希望を取り入れながら献立を決め、生協や地域の商店から食材を届けてもらい、利用者は後片付けなどに携わっています。季節に応じた行事食やバイキング形式にしたり、回転寿司やファーストフード店等の外食の他、百貨店の弁当やピザを取ったり、おはぎ等のおやつ作りも楽しんでいます。また車いすの方も椅子に座り替え姿勢を整え落ち着いて食事が摂れるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら、体調や体重の増加等を考慮し体重の増加傾向のある方には1日1回おかゆにしています。あまり違和感を感じないように調理をしながら召し上がっていただいています		

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行っています。又月2回訪問歯科の往診があり歯科衛生士より指導を受けています。又治療の必要があれば、ご家族様に連絡をして、治療をして頂くようにしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の毎日の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。寝たきり以外の方で、殆どの利用者様はトイレで排泄が出来ます。又このごろは紙パンツやパットを使用する方もいます。	排泄チェック表を確認しながら一人ひとりのタイミングを把握したり、失敗がみられる場合は早めの声掛けや誘導を行いトイレで排泄できるように支援をしています。立位のとれる方は日中はトイレでの排泄を基本に支援し、夜間はパッドを使用するなど個々に合った支援や排泄用品を検討し、失敗に繋がらず現状が維持できるように支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の摂取を心がけ水分補給や適度の散歩をするようにはしていますが、必要に応じて下剤でコントロールをすることがあります。水分摂取の難しい方にはゼリーを入れて飲みやすいようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回は入れる様にしています。入浴拒否をされる入居者様がいない為入浴がスムーズにできている。足の先の冷たい方には、足浴をしてもらっている	入浴は週に2~3回を目安に午後から支援し、夏場や汗をかいた時などは回数を増やし入ってもらっています。入浴時は職員と会話を楽しみながらその人のペースで入浴できるよう支援をしています。また入浴を拒む方はほとんど無く、入浴剤の色や香りの変化を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後暫くリビングで、歓談する方や、お部屋に戻ってパジャマに着替えて早々に休まれる方等、安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の調剤したお薬の効能・効果と注意事項の書かれた資料を頂き、職員が共有出来る様にしている。又個人名の書かれたボックスに日付順に入れて管理している。服薬まで数名によるチェックし、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な洗濯物干し、食事後のトレイ拭き等日々の活動の中から出来る役割を継続して出来るよう支援している。又毎日の散歩を楽しみにしています。		

グループホーム こころの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの外出支援といえば朝の散歩とホームで行事に出かけています。又今年、入居者2人とスタッフ2名で近くのスーパーにお買い物に行くようにしています。	悪天候の日以外は毎日交代で個々の体力に応じた距離を選び全員が近隣への散歩を楽しんでいます。桜の花見や紅葉狩り、近隣の公園に弁当を持って出かけたり、外食や地域行事などに出かけています。また公共交通機関を利用した墓参りや買い物、カラオケなど日々の中で汲み取った思いを個別の外出支援に繋げています。また気候の良い時は広い庭に椅子を出し、外気浴なども取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣い金をお預かりしており、大型の介護タクシーに乗って郊外の大きなスーパーに行くようにしている。食材や、衣類等手に取り、金銭管理の可能な入居者様には、自分で支払ってもらい、出来ない入居者様にはスタッフが同行して支払っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所に電話が置いてあり、ご家族様からホームに電話があったとき、入居者さまに「電話で娘様とお話しますか」と確認を取り次ぐようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の個室がありますが、皆様1階のリビングに座って、テレビを見たり、塗り絵をしたり、四字熟語の漢字を書いたり思い思いに自分がいつも座っている場所で楽しく過ごしている。又快適に過ごしていただけるように努めている	共用空間は行事の写真や利用者で作った季節の作品、時には散歩時にもらった花を活けたり、広い庭で育てている花や野菜を眺める事が出来、季節を感じて過ごせるよう配慮をしています。また広い廊下にテーブルと椅子やソファを置いたり、庭が見える場所にも椅子を置き、好みの場所を選び過ごせるようにしています。毎日換気や掃除を行い温湿度にも留意し過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング兼食堂として入居者様が気の合った方とゆったり過ごせるようにしている。又少し離れたところにソファをおいて一人でゆっくりしたい時や、気の合った入居者様が楽しそうに歓談をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の部屋は、皆様が今まで使っていたテレビや筆筒や椅子などを置いている。又写真やかわいい犬のカレンダーを壁にかけている。本人が居心地良く過ごせるようにしています	入居時に本人が安心できるよう馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、利用者は使い慣れた寝具類や筆筒、テレビ、大切な仏壇などを持って入居し、本人の過ごしやすさを考え配置しています。また自身の若い頃の写真や家族の写真、好きな小物類を置いたり、芸能人の写真を飾る方もおり、その人らしく安心できる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が安全に自立した生活が出来るよう共有部には、障害物等置かないようにしています。又入居者様の能力に応じて食事の後片付けを等して頂いています。		